



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)



## あるべき支援を考える 自閉症セミナー(第2回)に参加して

今回は「思春期・青年期の支援～事実を見つめ直し、新たな取り組みをさぐるために～」という演題で、篁(たかむら)一誠氏の講演を聞いてきました。自閉症の方がどんなことを感じているか、どんな思いでいるかを私たちにわかりやすく伝えてくださる方でした。

まずはレジュメにそって具体的な例をあげながら自閉症の説明があり、質疑応答後グループワークを行い、それを受けての総評で締めくくるといった流れでした。

本題の「支援」という話の中で印象に残ったことをいくつかあげてみます。

■ 青年期には周りの人の働きかけや指示に応じていく部分と、自分の意思で選べる部分の両方を兼ね備えて欲しいので、そのためには幼児期からの積み重ねが大切であるということ。(指示待ち人間にならないように)

■ 自閉症の人達は完全主義者で自分の失敗が許せないから、失敗させないようにと、あまり先回りしてはいけな。仕事ということを見据えるなら、失敗から学ぶ、失敗を乗り越えるという気持ちを育てていくことも大事。もう一度やってみよう、ここを工夫しようというような気持ちを持つことや周りのアドバイスを受け入れるゆとりもあって欲しい。

■ 人の指の器用さは15～18歳で決まるといわれる。どんな素材(布、金属、板、紙など)がその人に合っているかがわかると将来の職業選択の見通しになる。

■ 生活の自律や仕事をする土台を作るということで、家事のできるひとになる。やりたくなくても自分の役割

であることや最後までやり遂げるという姿勢でとりくむことによって社会に出る準備をしていく。(学校卒業後、社会参加が出来なかった場合家事を担うという自立もある)

■ 人として育つためには、好きなことだけをするのではなく教わる、学ぶということが大切。それは模倣から始まり、ほめられ、経験を繰り返す、出来るようになるまでチャンスを与えることが必要。

グループワークの総評の中で印象に残ったこと。家庭と学校施設が同じ方向を向いていった方がいいという発表に対して、それは不可能であり、人が違ったら環境が変わり、考え方も変わるもの、そこをどう生きていくかを教えないといけないというお話がありました。「皆さんもたぶん、そうやって生きていらっしゃるはずですよ」という声かけには思わず深くうなずいてしまいました。それぞれの立場、それぞれのやり方で係わっていても、子どもは意外と混乱しないとのこと。親や支援者にもほっとするメッセージが込められていました。(西尾)

このセミナーは 昨年10月18日(土)に実施されました。「あるべき支援を考える会」は、自閉症セミナーの開催や、準備会議及び事前勉強会を行うとともに、会員各自が現場で抱えている問題を共有していくことを目的としてケース勉強会及び研修会を実施しています。(会のブログより引用)

### 目次

自閉症セミナー レポート	1
ワカモノ・フェスタ「高校中退」	2
活動日誌	3
サイエンス・カフェ 19	3
こんな本はいかが? (7)	4

### 居場所のひとつ

木刀の制作、ゴム鉄砲の工作などに打ち込んでいます。ときどきウクレレやギターの音も聞こえたりします。先日、今年初めての雪が積もりました(写真)。ちょっと暖かかったり、ぐっと寒くなったりのくりかえしで2月が過ぎ、少しずつ春は近づいてきます。



## ワカモノ・フェスタ 「高校中退」分科会レポート (2008/12/7)

「ワカモノ・フェスタ」実行委員長の加藤さんと、フェスタで何をやるかとあれこれ話しているうちに高校中退の話題が出た。中退を補う手段として、定時制や通信制高校に再入学する、高等学校卒業程度認定試験を受けるなどの制度は用意されている。せっかく学校から離れたのだし、新たな可能性を探すのも面白いのではと思う。けれど、当人と家族はそんなのきな気分ではないだろう。この社会に生きる若者は、高校までを普通に過ごし、その時期に進路を選択していくという暗黙の流れの中にいる。高校中退とはこの仕組みから排除されてしまうことを意味しているのだから。

雇用が流動化している現在、学校での進路指導が今後も有効なのかはわからない。いっぽうで学校再編と管理強化が進んでいる。目的は、経済界が要請する相変わらずの富国強兵3階層モデル、(1)日本の産業競争力強化を支える国際的人材、(2)国際的人材の指示で柔軟に動くことのできる知的人材、(3)学力は必要とせず、実直な精神をもつ人材、のそれぞれ産業界が必要とする人数を学校教育で育成することである。しかし、昨年秋以降の雇用状況の混乱は、この計画の破綻を示している。そんな視点から高校中退を考えてみようと思った。

文部科学省が発表している2005年度の高校退学率は2.2%である。1年間の数値なので、卒業までの3年間を考えると退学率は6%を越える。しかも全日制高校から他の学校に転出した場合は退学にカウントされない。定時制高校の1年間の退学率は約14%で、卒業までの4年間で40%を越える。この中には全日制から転学し、

定時制や通信制で退学する高校生が含まれている。栃木県の2005年度の高校中退者数は1,503人であった。議論の資料として、これら退学関連データに加え、もういちど高校卒業資格に挑戦するには、どんな手段があるかなどのプリントも用意した。

当日、来場された方々は、高校中退者の親、大検で大学に入りいったん就職し、現在は自立した職業を模索する方、知り合いが高校中退者という方などさまざまだった。そのため、用意した資料は配布するだけにして、各自の思いを語る会に変更した。不登校や退学はきわめて個人的な問題に見えるが、社会の動きを強く反映している。それを理解したとしても、高校中退者が新たな一歩を踏み出すには、相当なエネルギーが必要なことには変わりがない。私はそんなことだけを短く話した。せっかく期待して来ていただいた方には、中途半端な内容だったのでないか。それでも参加者の方々から、当事者、親の立場、企業の見方など、多くの本音が聞けたのは有意義だったと思う。

文部科学省の統計によると、2000年前の頃、退学率が2.5%程度に増加した時期がある。「バブル後遺症」と言われる時代である。高校中退という指標は、経済・雇用状況に大きな影響を受ける。今年度、来年度と高校中退率はどう変化していくのだろうか。私たちのような地域のNPOは、高校中退者に対して、どんな支援が可能なのか、仕組みを構築していく必要性を強く感じる。最後に、年末のお忙しい中、集まってくださったみなさまに感謝します。(手塚)

## 子育て・親育ち勉強会のお知らせ

子育て・親育ち勉強会 第4弾

「ん？うちの子、ちょっと心配？」  
と思ったら 小・中学校編

講師：帷子 顕二郎さん  
日光市教育委員会 発達相談員（臨床心理士）

こんな事  
ありませんか？

- ★勉強を頑張っているのに・・・
- ★宿題が終わらない
- ★こだわりが強い
- ★同年齢と比べて幼い感じがする

3/14  
土

あなたの具体的な悩みや  
質問に帷子さんが答える  
質問タイムもあります。

子ども達の個性によって、ヤル気  
や努力でカバーしきれないことが  
あります。

勉強で、友達関係で、そしてご家  
庭で気になることがあった時、どん  
な支援が受けられるのか！ご家族  
にできることは何なのか！帷子さ  
んがお話します。

日時：2009年3月14日（土）  
午後1時30分～3時

場所：日光市今市中央公民館小ホール

定員：50名（先着順）

参加費：無料 ★託児あります★

主催：NPO法人なんとなくのひろば

共催：日光市

後援：日光市教育委員会

問い合わせ&申込先：

NPO法人なんとなくのひろば

TEL&FAX:0288-21-2631

帷子 顕二郎さん プロフィール

- ・青森県出身
- ・信州大学 教育学部
- ・専門教育大学院 学校教育研究科 卒
- ・2006年 とろろハビリテーションセンター 卒
- ・2007年 日光市教育委員会へ

親が感じる子育ての悩みにどう向き合ったらいいの  
か、具体的にどうすればいいのかという話題を通  
じて、子どもの発達障がいについて考え、理解を  
深めるための講演会です。一昨年から半年に一  
度のペースで開いています。講師は日光市教育委  
員会 発達相談員（臨床心理士）の帷子顕二郎さん  
です。今回は小学校3年生以上および中学生のお子  
さんを持つ親御さんが対象です。小中学校の先生方  
もぜひご参加ください。

託児等の準備がありますので、事前の申し込み  
をお願いします。

## 発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意  
見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。毎月第  
4月曜日、午後7時から、日光市民活動支援センターで開いてい  
ます。どなたでも参加自由の会です。気軽にご参加ください。  
(担当:西尾・白井) 連絡先: 日光市民活動支援センター(電話:0288-22-2271)

# 学びサポートひろば

毎週金曜日 午後4時～8時

発達障がい、不登校のこどもの  
自主的な学びをサポートします。

場所: 日光市民活動支援センター

(第2会議室)

時間: 開館時間内、11ヶ月

はじめの1ヶ月は無料です。  
その後は実費を  
負担いただきます。



主催: NPO法人なんとなくのこにわ

協力: 日光市民活動支援センター

連絡先: 080-5514-2631 (手塚)  
0288-22-2271 (事務局)

## ☆ 活動日誌

- 1 1月23日 (日) ベリー会 (吉成、吉成啓子)
- 1 1月24日 (月) 発達障がい支援者連絡会 (第32回)
- 1 1月29日 (土) ワカモノフェスタ実行委員会 (加藤、吉成、沼尾)
- 1 2月 2日 (火) 通信「なんとなくのひろば」第14号発行
- 1 2月 4日 (木) ワカモノフェスタ実行委員会 (加藤、吉成、沼尾)
- 1 2月 6日 (土) ワカモノフェスタ実行委員会 (加藤、吉成、沼尾)
- 1 2月 7日 (日) ワカモノフェスタ (加藤、吉成、沼尾、西尾、村上、白井、手塚)
- 1 2月14日 (日) ベリー会 (吉成)
- 1 2月22日 (月) 発達障がい支援者連絡会 (第33回)
- 1 月11日 (土) 理事会 (第25回)
- 1 月25日 (日) ベリー会 (吉成K、吉成Y講演、沼尾三味線ライブ)
- 1 月26日 (月) 発達障がい支援者連絡会 (第34回)
- 1 月31日 (土) サイエンス・カフェ19 「化学の父 ラボアジェの実験」
- 2 月22日 (日) ベリー会 (吉成)
- 2 月23日 (月) 発達障がい支援者連絡会 (第35回)

日光市・子育て情報ホームページはこちらから

<http://www.nantonakuno.net/kosodate/>

日光市・子育て支援情報  
<http://www.nantonakuno.net/kosodate>

子育てまっさいちゅうのお母さん、お父さんへ日光地域のいろんな情報をお伝えするページです。

運営 NPO法人なんとなくのこにわ (日光市子育て支援課委託事業)



水蒸気から水素を取り出す

酸素中でのダイヤモンドの燃焼

このページから「メルマガ」に登録すると、月に数回、イベント告知、豆知識、おすすめ本などを掲載したメールが届きます。

知らせてほしい情報、要望などありましたら遠慮なくメールでお知らせください。メルマガのニックネーム、ちょっとしたエッセイなど募集中です！

## サイエンス・カフェ19

■ 化学の父 ラボアジェの実験 1月31日(土) 日光市民活動支援センター

講師: 湯澤光男 さん (宇都宮市立雀宮中学校 副校長)

ラボアジェは、18世紀後半に活躍したフランスの化学者です。精密な実験技術を駆使し、化学反応の前後で全体の「重さ」が変化しないという「質量保存の法則」の発見で知られ、近代化学の父と呼ばれています。今回は、そのラボアジェが行ったふたつの化学実験、「ダイヤモンドの燃焼」および「水が元素かどうか調べる実験」を再現しラボアジェの生涯と業績を紹介。

ラボアジェは巨大なレンズで太陽光を集め、熱でダイヤモンドを燃やし、二酸化炭素ができることを示しました。この実験を再現しようと、湯澤さんは大きなフレネルレンズでダイヤモンドを燃焼させる装置を自作しました。残念ながらこの日は雨天だったので、ガスバーナーでダイヤモンドを加熱しました。ダイヤモンドは、燃えるときどんな色を出すのでしょうか。紙やロウソクが燃えるのと同じ、オレンジ色なのです。ダイヤモンドは炭素原子からできているので、かんがえてみればあたりまえのことなのですが、私はそのオレンジ色を、とても印象的に感じました。ビンの中に石灰水を入れて振ると、白濁することで、二酸化炭素ができたことがわかりました。

後半は水蒸気を鉄と高温で反応させ、水素を取り出す実験を行いました。これも湯澤さんの工夫がうかがえ、興味深いものでした。近代科学黎明期の雰囲気伝わってくる、楽しい実験をありがとうございました。(T)

〒 321-1261 日光市今市 378  
電話/Fax 0288-21-2631  
E-mail: info@nantonakuno.net

ホームページもご覧ください  
<http://www.nantonakuno.net/>



## 私たちの活動目的：

日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

## 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動



## こんな本はいかが？

### その7 こどもの絵本あれこれ

最近、小学校では、絵本の読み聞かせがとても活発に行われるようになりました。ノンフィクション作家の柳田邦男さんも絵本のすばらしさを様々な場所で語っています。「絵本は子どもが読むもの」と思っている方は多いと思いますが、実は絵本には、人間が生きていくときの知恵やこころの交流がたくさんちりばめられているのです。だから、大人になってから読むと、子どもの頃とは違った「心にひびく言葉」をたくさん発見することができます。今回は大人が読んでもグッとくる素敵な絵本を紹介しましょう。

#### ■「あらしのよるに」シリーズ 木村裕一・作 あべ弘士・絵 講談社

ごちそうなのにともだちで、なかよしなのにおいしそう!?

- ① 「あらしのよるに」 嵐の夜にたったひとり。見知らぬ所で誰かに出会えたらほっとします。でも、…。
- ② 「あるはれたひに」 だーいすきなごちそうと、友達になっちゃたら!?
- ③ 「くものきれまに」
- ④ 「きりのなかで」
- ⑤ 「どしゃぶりのひに」 とても気の合う友達の悪いうわさを教えられた。さあ、どっちを信じたらいい?
- ⑥ 「ふぶきのあした」
- ⑦ 「まんげつのよるに」 大好きな友達が変わってしまって、君のことなんて忘れてしまったらどうする?

#### ■「おおきな木」

シェル・シルヴァスタイン・作 ほんだ きんいちろう・訳 篠崎書林  
一本のりんごの木が一人の人間に限りない愛をささげる美しくも悲しい物語です。 (白井)

## 会員について

正会員：40

賛助会員：18

団体会員：3

入会金はありません。

年会費(一口)：正会員3,000円

賛助会員 個人5,000円、団体10,000円

「なんにわ」活動の約3割は会費でまかなわれています。会員の継続をよろしく願います。

会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いします。



## なんとなくのへや

先日、答えだけが四角の中に書かれている中学生の数学プリントを見て、ちょっと不思議な感じがしました。計算をやってきた子に聞いたところ、途中の計算は別のノートまたは紙に書き、答えを転記したというのです■計算の途中経過は芝居の楽屋と違い、人に見せてまずいものではありません。それは計算を行った人の思考の過程です。大げさに言えば、答えに至る道筋を書き残しておくことに計算することの意味があるのです。答えを囲みの中に書くという問題プリントのスタイルは、便利に採点するための工夫にすぎません■学校で数学を学ぶ目的のひとつは、問題を理解し、かんがえ、解答に至るといって、小さな作業を積み重ねながら、論理的に考える力を身につけることです。その過程を他人が追体験できるように、または自分が後で再確認できるように、紙に記述することが大切なのです。答えが紙のどこに書かれるかはたいした問題ではありません。採点の効率化、機械が採点する都合などで、記入欄が決められているだけなのですから■あらためて本屋に並ぶ小学校・中学校の計算問題集を見ると、計算を書く欄が狭いように感じます。プリントを何度でも使えるように、そして、問題数を増やすために計算欄を狭くし、解答のみを書かせて紙の節約をはかっているのでしょうか■試験に合格するためには問題を解く速さが要求されます。ゆっくり考えている間は間に合わないから、数学の試験でも「答えを暗記する」という子もいるそうです。せめて「なんにわ」で使う問題プリントは工夫して解答欄を広げようかと、そんなことが気になった「学びサポート」の一場面でした。(T)